

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

県内一周駅伝で 植松純氷さん快走!

二月一三〜一五日の三日間に渡り、第六六回郡市対抗県内一周駅伝大会が佐賀県全域で開催されました。伊万里市チームの一員として植松純氷さんが出走し、会心の走りを見せ区間賞とは僅差の区間三位の好タイムで、トップのままタスキを渡しました。

伊万里市チームの最終成績は2位、中学生区間で好成績を収めた伊万里市は武雄、多久と並んで佐賀県SP賞が送られました。佐賀新聞のインタビュで植松さんは「全員がいい流れでタスキをつなげた。違う中学の仲間と走れて刺激になった」と喜びの声を伝えていました。

日々の練習の成果を十分に発揮した植松さんは高校になっても競技を続けるという事です。これからの更なる活躍を、心から願っています。

「読書の旅」

昨年、「子ども話し方大会」に出場した三年栗原航希さんの文章です。是非紹介したくて、本人の了承を得て、学校通信に載せました。

「読書の旅」 栗原航希
私は、読書が好きです。

黒川町は、読書の郷で「お話どんぐり」という読み聞かせの方が保育園から中学校まで、月に二回来られて、絵本の読み聞かせをして下さいます。

また、「絵本のたね」という町角絵本箱があります。そこはいつでも誰でも自由に本が借りられます。中学校では始業前に朝読書があります。

このように、私は小さいころから読書に親しんできました。でも、本を読む意味や理由について、深く考えたことはありませんでした。けれど、この「放課後の読書クラブ」を読んだ、本が持つ力や人生に与える影響について考えるようになりました。

この本は、小手鞠いさんが自身の経験をもとに、出会って

きた本や、その時感じたことを紹介するエッセイと、短い創作の物語が交互に入っている構成です。

一冊の本の中に、いろんな物語が入っていて、読んでいるとまるで「本の宝箱」を開けたような気持ちになります。

特に印象に残ったのは、アメリカに住んでいた時代のことを振り返って書かれている部分です。遠い国で暮らすことの不安や孤独、その中で、言葉や文化の違いにぶつかりながらも、本が心の支えになっていたという話に強く心を動かされました。

新しい環境で緊張したり、不安を感じたりすることは、学校生活でもありません。そんな時、本がそばにいてくれると、安心するというのが、私にも分かる気がします。

また、小手鞠さんが紹介する本には、聞いたことのある名作もあれば、まったく知らなかった本もありました。

そのどれもが、小手鞠さんの「運命の一冊」のように感じられる、本は、人と人とを繋げるものなんだと思います。

本を通して、誰かの考えや感情を知ることで、自分の心にも新しい風景が、広がっていくような気がします。

私は、読書を「ただの趣味」と考えていました。しかし、「生き方」や「考え方」にも繋がるものだと気づきました。本

の中の言葉が、自分を励ましてくれたり、新しい価値観を教えてくれたりするのです。

だからこそ、読書は「勉強」というより、今まで知らなかった世界に連れて行ってくれる「冒険の旅」に近いものかもしれません。

特に、心に残った一文があります。「本は、人生の中の一番つらい時間をそっと支えてくれる、友だちのような存在です。」という言葉です。

私は今まで、本を「道具」のように考えていたところがありません。でも、これを読んで、本は友達のように大切にすることを思いました。

この本に出会ってから、私はこれまで読んで本を思い返しました。そして、自分にも「運命の一冊」と呼べるような本があるのかあるいは、これから出会うのか。そんなことを考えるようになりました。

「放課後の読書クラブ」は、全ての人にやさしく語りかけてくれる一冊です。これから、本をもっと好きになりたい、世界を広げたいと思っている人には、ぴったりの本だと思おうので、ぜひ読んでほしいです。

私は、今、中学三年生です。あと半年余りで卒業します。将来は調理師になりたいです。

「読書の旅」を続けていけば、自分の生き方や進み方が、もっと広がるかもしれません。

これからも、様々なジャンルの本を読んで、視野を広げていきたいと思えます。

そして、自分の考えや、心を豊かにしてくれる「読書の旅」を、私は楽しみたいです。

*** **

これから先の人生でもずっと「読書の旅」を楽しんでください。また多くの人が「運命の一冊」と出会えることを心より願っています。

【忘れぬことの大切さ①】

ミスターチルドレンの曲「トゥモローネバーノウズ」がお気に入りです。歌詞にある、「人は悲しいくらい忘れていく生きもの」というフレーズがとても心に残ります。「人は忘れていく生きもの」です。今回は「忘れる」ことについて深掘りしたいと思います。

私は陸上競技の選手ですが、割とケガが多く、練習できない期間が長いです。

足を痛めると当然走れなくなりませんが、そんな時は上半身を中心にトレーニングします。やがて痛みが引いてくると徐々に走り始めますが、スピードは出せません。

そこで、ゆっくりとした動きの中で、重心の移動や着地の足のつき方・けり出し方など、細かい動きに注意しながら走りをはじめから作っていきます。それまでの動きを一度「忘れて」リセットすることで、よりスムーズで、効果的にスピードを出せる動きをつくり上げていけるのです。(②に続く)